

産業構造審議会 産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会 自動車リサイクルワーキンググループ、中央環境審議会 循環型社会部会 自動車リサイクル専門委員会 第31回合同会議-議事要旨

日時：平成25年8月7日（水曜日）10時～12時15分

場所：航空会館 7階大会議室

出席者

永田委員（座長）、大塚（直）委員、大石委員、片岡委員、加藤委員、河村（二）委員、河村（真）委員、鬼沢委員、小林委員、酒井委員、澤田委員、戸澤委員、林委員、細田委員、武藤委員、森谷委員、和田委員、渡辺委員

議題

1. 自動車リサイクル法の施行状況
2. 自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する対応状況
3. 最近の動向
4. その他

議事概要

1. 自動車リサイクル法の施行状況

- 中古車輸出の状況如何。（細田委員）
 - 平成21年度より増加傾向。ロシアやミャンマー向けの輸出が多い。（事務局）
- 日本ELV機構の取組として、平成25年度よりリサイクル士制度を創設。認定講習会を通じて、自動車リサイクル法制度の安定的な運用と法令遵守、適正処理に貢献したい。（河村（二）委員）
- メーカーの収支について詳細な説明を希望。（河村（真）委員）
 - 一台あたりの収支誤差は150円程度と、法施行時のリサイクル料金の設定額は妥当。収支の黒字化に伴い、リサイクル料金の値下げを推進。車の廃棄まで時間がかかることから、値下げの効果が現れるまで時間がかかることについてご理解いただきたい。（加藤委員）
- リサイクル料金が車種毎に異なる理由如何。（大塚委員）
 - 車種によりエアバッグの個数や、ASR重量が異なっていることに由来。（加藤委員）
- 自動車リサイクル法のスキームに乗らずに、不適正処理されて部品として輸出されている自動車はどの程度あるのか。（武藤委員）
 - 事務局として数量の把握は困難。違法解体ヤード等による無許可解体が行われている例があることは承知しており、警察等と連携して対策を進めているところである。（事務局）

2. 自動車リサイクル制度の施行状況の評価・検討に関する対応状況

環境負荷物質への対応、ASR性状調査について

- 環境負荷物質削減に関し、アジア各国での生産乗用車の取り組み如何。（鬼沢委員）
 - 各メーカーにおいて、生産国、仕向地での規制に合わせた対応を行っている。（加藤委員）
- ASR中の鉛濃度に削減傾向がみられたのは良いことだが、今後鉛濃度が下げ止まることもあり得る。EUの取組などを参考に、モニタリングシステムの導入が検討されることを期待。（酒井委員）
- 分析試験の検体数が少ないが、理由及び今後の方針如何。（大石委員）
 - ASRについては試料の作成に手間がかかり、予算制約上、検体数は少ない状況。引き続きモニタリングは続けていく予定。（事務局）

- 水俣条約により、水銀添加製品の製造、輸出及び輸入の禁止が求められているが、今後の対応如何。（細田委員）
 - 水銀条約は2020年までに措置を行う必要があるが、自動車製造業者等による有害物資の自主的削減取組の状況を踏まえて、制度等の措置が必要か検討してまいりたい。（事務局）
- 鉛蓄電池について、海外に輸出する際のパーゼル条約での取り扱い状況如何。（細田委員）
 - リユース目的はパーゼル条約の対象外。リサイクル用途での輸出はパーゼル条約に基づいた対応を行っている。（事務局）
- 水銀条約に関連して、市中に流通している自動車の水銀の量を把握しているか（大塚委員）
 - 現時点で把握していないので、制度等の措置の必要性を検討する際に、併せて検討することとしたい。（事務局）

廃鉛蓄電池リサイクルについて

- 鉛価格が下落した場合の、新自主スキームの有効性如何？（鬼沢委員）
 - 新自主スキームは、鉛の市場価値が低い想定で制度設計しており、有効性は確保されると認識。（SBRA）
- 新自主スキームの排出事業者が急激に増加した理由如何。（鬼沢委員）
 - 10万枚のパンフレットを配布したことや、過去の自主取組に協力していた排出業者からも登録があったことにより増加。（SBRA）
- 個人が購入した鉛蓄電池についても回収は可能なのか。（大石委員）
 - 最寄りの引取業者に持ち込んでいただければ回収は可能。（SBRA）
- 新自主スキームについては、消費者の利便性の観点からぜひ自治体へ周知し、協力して進めてほしい。（大石委員）

廃発炎筒処理システムについて

- 廃発炎筒の処理残さの再生利用量が今年度大幅に増加しているが理由如何。（鬼沢委員）
 - 処理業者の選定を見直しセメント等への利用が進んだため、増加。（炎筒工業会）
- 廃発炎筒について、自動車リサイクル法における事前回収物品化を要望。（渡辺委員）

使用済ニッケル水素電池・リチウムイオン電池のリサイクルについて

- 次世代自動車などの生産・排出動向について経年変化に関する情報を蓄積していただきたい。（酒井委員）
 - 生産などは各社のデータになる。可能な範囲で対応したい。（加藤委員）
- ニッケル水素電池の回収率6割とのことだが、残りの4割はどうなっているのか。（武藤委員）
 - 他用途で使用されている場合があると聞いている。自工会としては是非、国内でリサイクル・リユースしていただけるようお願いしたい。（加藤委員）
 - ニッケル水素電池などの処理については、解体業者が当該スキームを活用していくよう指導していきたい（河村（二）委員）
- ニッケル水素電池などの、リユース・リビルドへつなげる仕組みが必要ではないか。（武藤委員）
 - ニッケル水素電池について、車への再利用、その次に建物用、最後にマテリアルと、様々な段階でのリユース・リサイクルを進めているところである。（加藤委員）

3. 最近の動向

- 放射線汚染車両については、処理が困難であり、保管の際も、作業員の健康被害が懸念されるため、速やかな対応を国に期待。（河村（二）委員）

4. その他

- プラスチックやバンパー、ガラスなどのマテリアル利用推進をお願いしたい。（渡辺委員）
- エアバッグの適正処理が確実に行われるように、作動処理について抜本的に仕組みを見直すことが必要。（渡辺委員）
 - これまでも自動車再資源化協力機構による無通知監査などを実施。解体業者とも協力して適正処理に努めたい。（加藤委員）
- 自動車の環境配慮設計として、リサイクル性を考慮してほしい。（渡辺委員）
- 環境配慮設計については従来から定量評価に課題があると認識。（永田座長）
 - 環境配慮設計についてはLCA、LCCの観点から、検討してまいりたい。（加藤委員）
- リサイクル料金の透明性を高めていただきたい。（河村（真）委員）

以上

産業構造審議会 産業技術環境分科会 廃棄物・リサイクル小委員会 自動車リサイクルワーキンググループ、
中央環境審議会 循環型社会部会 自動車リサイクル専門委員会合同会議の開催状況

お問合せ先

製造産業局 自動車課

最終更新日：2013年8月27日